

水銀ネコふえる

牛深、八代でも検出

厚生省調査会
が中間報告

水俣病の原因を究明中の厚生省食品衛生調査会水俣食中毒部会（委員長、鰐淵前熊大学長）では八日午後一時から熊大医学部で初の中間報告会をひらいた。

世良医学部長、宮川、入鹿山、喜田村、武内、内田各教授らをはじめ、大原理學部長、南葉、後藤同教授、新日窒水俣工場の関係者ら約二十五人が集まり、鰐淵委員長の司会で討論したが毒物として

は水銀説が一番有力だとの意見が強かった。

しかし有機水銀説を主張する喜田村、武内、内田各教授に対し宮川、入鹿山両教授は有機水銀の中のなにかということがわからない以上、広く水銀という線ですすめた方がよいと反論。さきの熊大研究班の結論よりいくぶん後退した印象を与えた。

また席上、理学部の後藤教授は「水俣病と直接関係があるかどうかはわからないが」と前置きして、不知火海沿岸（牛深、八代市を含む）のネコの肝臓や毛から多量の水銀が検出されたことを報告して注目された。

なおこの中間発表は十月の厚生省食品衛生会へ報告される。